

I ま え が き

令和２年度の一般会計の決算額は、歳入総額が９，５９７億４，４００万円、歳出総額が９，５６２億７００万円となり、歳入・歳出とも増となりました。

歳入総額については、前年度決算額と比較すると２９．７％の増となっています。

これは、特別定額給付金給付事業などによる国県支出金の増、「川崎市複合福祉センター ふくふく」の整備などに係る市債の増などがあったことによるものです。

歳出総額については、前年度決算額と比較すると２９．８％の増となりました。

これは、公債元金及び利子の減などによる公債費の減の一方で、特別定額給付金給付事業費の増などによる健康福祉費の増、川崎じもと応援券推進事業費の増などによる経済労働費の増などによるものです。

また、歳入歳出差引額から、令和３年度への繰越事業に充当する繰越財源を差し引いた実質収支額、いわゆる剰余金は１億８，４００万円となりました。

市税収入については、法人市民税における税率引下げによる減の一方、個人市民税における納税者数の増加による増、固定資産税における家屋の新增築などにより、８年連続の増収で７年連続の過去最高となりました。また、予算では、減債基金から１２５億円の新規借入を予定していましたが、決算では、予算に対して市税が増収となったこと、医療機関への受診機会の減による小児医療費助成事業費の減など、新型コロナウイルス感染症の影響により歳出が減少したことなどにより、最終的には新規の借入は行いませんでしたが、借入の累計は５２７億円となっており、引き続き厳しい財政状況となっています。

このような状況においても、多様化する課題への的確な対応など、必要な施策・事業の着実な推進と、財政の健全化による持続可能な行財政基盤の構築の両立に向けた財政運営を進めてまいります。

以下、令和２年度決算のあらまし及び令和３年度上半期予算執行のあらましについてご説明いたします。